

第1回北海道ギャンブル等依存症対策推進会議(R4.8.31)の意見について（意見様式提出）

資料 2-2

提出機関	意見	対応
札幌方面遊技 事業協同組合	<p>○ その他</p> <p>1. 久里浜医療センターの調査による成人人口に占める割合「2.2%」というお話がありましたが、この 2.2%というのは「ギャンブル等依存症が疑われる者」の割合であり、「ギャンブル依存症」の数ということではないと理解していますが、それでよろしいでしょうか。</p>	<p>1.</p> <ul style="list-style-type: none"> このような自主記載による住民対象の疾病のスクリーニング調査は、医師による診察や健診による調査結果ではないので、「・疑われる」の文言を付けるのが通常です。また今回の調査方法は、国際診断基準そのものを尺度とせず、より簡便で国際比較の実績がある SOGS を使った点からも、「・疑われる」としたほうが、より正確ですが、一般には「〇〇〇の有病率の推定調査として、△△のスクリーニングテスト（例えば SOGS)を使用」と明言したうえで、その結果を人口換算し、“△△（例えば SOGS）による調査結果に基づき、「〇〇症の有病率を～%と推定した」”などと使うことがあります。
	<p>2. 基本的なことですが、会議に出席していると「ギャンブル依存症」＝「病気」という方が散見されるようですが、本当にそうなのでしょうか。すべてを否定しませんが、アルコール中毒とは違ってギャンブル依存症の治療には薬物療法はなく心理社会的な治療が中心となると聞いたことがあるのですが、医学的知識がないのでこの点について回答いただければ幸いです。</p>	<p>2.</p> <ul style="list-style-type: none"> 医学的には基本的なことなのですが、「中毒」は、「毒に中（あた）る」という意味なので、「<u>中毒</u>」は「<u>依存または依存症</u>」とは全く異なる医学概念です。現代医学では「アルコール中毒」は「アルコール依存症」とは別物です。 また、これも基本的なことですが中毒は病気で、依存症は病気でないという考えは誤りです。これまでに「依存症」は「治療等を必要とする病態」であると医学的な判断が確立しています。 ギャンブルへの依存症は、1970 年代に「病的賭博」という名称で正式に WHO の診断分類に入りましたが、その後の研究によってこの病気への理解が進み、ギャンブルがやめられないメカニズムは、アルコール依存症や薬物依存症と似ている点が多いとわかってきました。このため、2013 年の米国の診断分類では、アルコール依存症等と同じカテゴリー（物質使用障害および嗜癖性障害）の障害として位置づけられました。 診断名としては「病的賭博（WHO の ICD-10 診断名）」から「ギャンブル障害（米国）」や「ギャンブル症（ICD-11 診断名の予定訳語）」などが徐々に使われだしています。アルコール・薬物・ギャンブルの「依存症」は、米国の診断基準でも WHO の診断基準でも、いわゆる病気と考えると差支えない状態です。 薬物を治療に使うかどうかは、治療者が医学的根拠で判断して使用したり、使用しなかったりするものであり、「治療する薬物があるかないか」で、「病気がどうか」が決まるものではありません。心理社会的治療が主となる病気の場合には、医師や心理士などの専門職ではない非専門職の人が、独自に“〇〇カウンセラー”を自称したり、“△△セラピー”と称したりして、当事者に関わる場合があります。こうした非専門職による医療行為とは言えないものも社会に増えつつあるので、「病気ではない」という考えが広まっているのかもしれない。 <p>参考資料 依存症対策全国センター ホーム＞理解したい＞ギャンブル依存症＞ギャンブル依存症ってどんな病気？ URL ギャンブル依存症ってどんな病気？ - 依存症対策全国センター (ncasa-japan.jp) https://www.ncasa-japan.jp/understand/gambling/about</p>